

第5分科会【英語】

豊かな表現力につながる思考力の涵養を目指して

報告者▶ 牧野 剛士（福井県立敦賀高等学校教諭）
報告者▶ 今井由美子（同志社女子大学表象文化学部英語英文学科准教授）
コーディネーター▶ 藤田 五樹（京都府教育委員会高校教育課指導主事）

新学習指導要領で育成が求められている英語力は、表面的な英語の理解にとどまらず、多様な人々との対話の中で、目的、場面や状況に応じて適切な言語材料を思考・判断し、表現するという高次の能力である。本分科会では、深い思考力と豊かな表現力を育成する具体的手法を探りながら、高次の能力の育成法について考え、参加者と意見交流をする。

概 略

本分科会では、「豊かな表現力につながる思考力の涵養」をテーマに、パフォーマンス課題・評価に焦点を当て、講義、実践発表及び質疑応答を行った。外国語科の新高等学校学習指導要領では、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にする観点から外国語科の目標が設定されている。本分科会では「外国語を使って何ができるようになるか」について焦点化し、その指導に有用であるパフォーマンス課題・評価の理解を深め、より広く高校で実践していくことをねらいとした。

また、本年度は他県の取り組み状況から新しい視点を取り入れることを目的として、福井県立敦賀高等学校での取り組みを同校教諭の牧野剛士氏に報告していただいた。

初めにコーディネーターが、本分科会の導入として、新高等学校学習指導要領の外国語科改訂の趣旨及び要点を確認し、現行学習指導要領との目標の違いを提示した。そして新学習指導要領の目標を具現化するにはパフォーマンス課題・評価の活用が有効であると定義づけた。

続いて、牧野氏より勤務校である敦賀高等学校で取り組んでいるパフォーマンス課題・評価についての実践発表がなされた。牧野氏が授業を展開する上でテーマにしているのは、（１）「意見・考え」をやり取りできる仕掛けをつくる、（２）「４技能」を可能な限り取り入れる、（３）度胸をつける、（４）教師自身が勉強・工夫し色々試してみる、という４点である。同校勤務中に福井大学大学院で２年に渡って自己研鑽を積んだ牧野氏は、「言語を使う時点で必ず意見を伴う」という学びのもと、生徒が自分の意見や考えをやり取りする活動を必ず授業に取り入れている。授業で用いる豊富なワークシートと生徒の実践動画を提示しながら、意見と考えをやり取りさせるために取り組んでいるパフォーマンス課題・評価の実践について丁寧に解説をされた。

取り組みの成果として、生徒たちが大学入試センター試験で得点を上昇させていることや、ディベート大会で好成績を挙げたことなどを事例に、パフォーマンス課題に取り組むことで生徒の英語処理能力が高まっていること、実際に英語を使う場面が増えることで授業に対する生徒のモ

チベーションが高まっていることを挙げられた。パフォーマンス課題・評価に取り組むことで語彙力・構文力をはじめとした英語の知識が深まらないという課題が出てくるが、家庭学習の指導と週に1度の長文・文法の解説授業の展開で対応していることも併せて伝えられた。

牧野氏に続き、同志社女子大学の今井准教授よりこれからの英語教育として4技能5領域を見据えたアウトプットへの指導について講話をしていただいた。講話にあたり冒頭で「コミュニケーションのための4つのスキルとそれらを取りまくもの」という形で、言語を学ぶ際に行われる過程を図式化し、言語を学ぶということ自体がどれほど困難なことであり、その学習過程にある生徒たちは日々努力を重ねていることを解説し、その努力を讃えるべきであるという点を強調された。そしてパフォーマンス課題の実践に向けて、アウトプット活動につながるインプットとしての「しかけ」「モデル(見本)」「目標」の重要性と、その評価の仕方について詳細に説明された。

学習者に使わせたい語彙・表現・組み立て方法などを提示する「しかけ」、生徒たちに目標とすべきものを具体的にイメージさせるために1年前の先輩の記録を残し生徒に提示する「目標」、欲張りすぎずに基本は3段階の簡単なスケールで行う「評価」について具体的な説明を加えながら、パフォーマンス課題・評価について定義をいただいた。自身の研究主題である音声学指導での実例も踏まえながら、大学にて行っている実践例も数多く提示されたので、参加者にとっても実践にあたって実際にすべきことがイメージできる有意義な講話となった。

全体討論の内容

以下の質疑応答がなされた。

- ・「英作文のテストにおいて評価の基準を示されているが、どのような観点で基準を設定しているのか」
→生徒に評価の観点を示すために基準を示しているが、実際に採点をする際にはどうしても主観的な判断で基準に照らし合わせている面は否めない。評価をいかにして客観的なものにするのかについては現在も試行錯誤しながら研究しており、今後も課題としたいと考えている。
- ・「小学校での英語教育が始まることにより、例えば小学校の時点で英語に苦手意識を持ち英語嫌いになった場合、英語が嫌いな期間が長くなることを大変危惧している。英語に対して苦手意識を持っている生徒の気持ちの持って行き方について何かアドバイスがあればお願いしたい」
→・英語の指導や英語を学習することに対して、教員自身が楽しむことが必要ではないか。英語を学ぶことに対して楽しむ気持ちを伝えることが大切だと思っている。
 - ・パフォーマンス課題に対応することを通して、生徒に達成感を持たせることが大切だと考えている。
 - ・小学校の時点でハードルの高いことを課すのではなく、まずは日本語と英語の違いに対して気づきを増やしていくような活動を心がけてみるのがよいのではないか。

到達点と今後の課題

パフォーマンス課題・評価に関して、牧野氏の創意工夫ある多様な活動の提示、今井准教授の自身の研究と実践に基づく説得力ある定義を通じて分科会参加者にもパフォーマンス課題・評価

の具体的手法とともに、実践に向けての心構えや考え方がしっかり伝わった。パフォーマンス課題・評価の必要性を感じながらも、具体的な実践に取り組めていない学校にも、パフォーマンス課題・評価の理念と実践法が伝わる大変参考となる発表になった。

大学入学共通テストにおいて民間の資格・検定試験の活用は見送られたが、英語教育において4技能の育成が重要であることに変わりはない。今回の見送りを受けて4技能指導への関心が薄らぐことがないように、効果的な取り組みについて広く周知する取り組みを継続して進めていくことが重要である。



スライド1

豊かな表現力
につながる思
考力の涵養を
目指して

パフォーマンス課題に取り
組むために授業で何を
すべきか

福井県立敦賀高等学校
英語科 牧野剛士

スライド2

1 敦賀高校の概要



- ・創立以来約110年の歴史を誇る、地域に根ざした公立高等学校
- ・普通科（6クラス）・商業科（1クラス）・情報経理科（1クラス）の3学科8クラス
- ※来年度から探究科（2クラス）設置予定

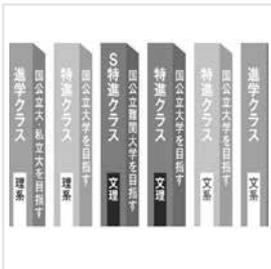
スライド3

1 敦賀高校の概要（クラス編成）

学科	コース	入学者定員	クラス数
普通科	進学クラス 3クラス	約200名	3
	特進クラス 2クラス		2
	S特進クラス 1クラス		1
商業科	1クラス	約30名	1
情報経理科	1クラス	約30名	1

スライド4

1 敦賀高校の概要（クラス編成）



2年次からは

- 文理混合S特進クラス（1クラス）
- 文理混合特進クラス（1クラス）
- 理系進学クラス（1 or 2クラス）
- 文系進学クラス（2 or 3クラス）

→ 進路別・習熟度別に編成

スライド5

1 敦賀高校の概要（主な進学先）

大学（4年制）

国公立大学

東京大(1)・大阪大(3)・神戸大(4)・名古屋大(2)
筑波大(3)・広島大(3)・岡山大(4) 等多数
敦賀市立看護大(6)・福井大(20)・福井県立大(26)
金沢大(11)・滋賀大(8)

私立大学

早稲田大(2)・慶応大(1)・東京理科大(7)・明治大(3)
同志社大(5)・立命館大(9)・関西学院大(5)・関西大(7)
龍谷大(18)・近畿大(23) 等多数（指定校も多数）

スライド6

2 現在の英語教育を取り巻く現状



(I) 学習指導要領の改訂

- ・中学校外国語学習指導要領（2017年告示／2021年実施）
- ・高等学校外国語学習指導要領（2018年告示／2022年実施）

スライド7

2 現在の英語教育を取り巻く現状

(2) 改定のポイント・小中高における外国語教育の変更点

4技能・5領域
「聞くこと」「読むこと」「書くこと」
「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」

やり取り (interaction)
→即興的な会話やディスカッション、ディベートなど

発表 (production)
→スピーチやプレゼンテーションなど



スライド8

2 現在の英語教育を取り巻く現状

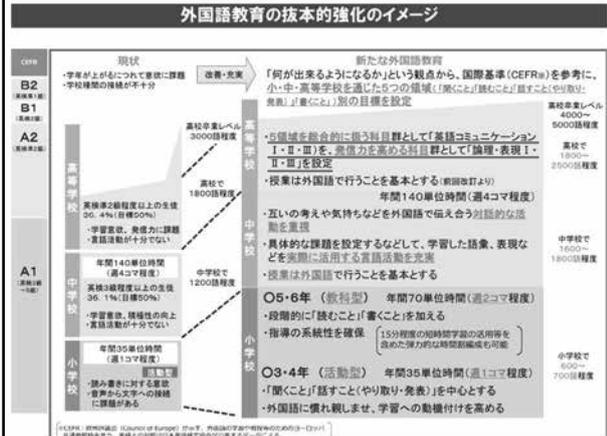
(2) 改定のポイント・小中高における外国語教育の変更点

- ・2020年度より小学校3、4年次で「外国語活動」が始まり、5、6年次から教科「外国語」が導入
- ・中学校でも「授業を外国語で行うことを基本」という文言が
- ・現在の高校の2年生が3年生になった時から4技能入試の導入（各種外部テスト）

さらに「話すこと」が重視される傾向
(パフォーマンス課題が重要に)

スライド9

外国語教育の抜本的強化のイメージ



現状
・学年が上るにつれて重視に課題
・学校種別の格差が不十分

改定・充実
「何が出来るようになるか」という観点から、国際基準 (CEFR) を参考に、小・中・高等学校を通じた5つの領域(「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」、)別の目標を設定

新たな外国語教育
・5領域を総合的に扱う科目として「英語コミュニケーション I・II・III」を、自信の高める科目群として「論理・表現 I・II・III」を設定
・授業は外国語で行うことを基本とする(前向き訂より) 年間140単位時間(週4コマ程度)
・互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な活動を重視
・具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを実際に活用する言語活動を充実
・授業は外国語で行うことを基本とする

高等学校
・高校卒業レベル 3000程度
・高校で 1800程度
・英検準2級程度以上の生徒 30.4%(目標50%)
・学習意欲、理解力に課題
・言語活動が不十分でない

中学校
・年間140単位時間(週4コマ程度)
・英検3級程度以上の生徒 36.1%(目標50%)
・学習意欲、理解性の向上
・言語活動が不十分でない

小学校
・年間35単位時間(週1コマ程度)
・「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」を中心とする
・外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める

スライド10

3 英語授業で心がけていること

(1) 「意見・考え」をやり取りできる仕掛け

コミュニケーション英語の授業において「意見・考え」をやりとりする活動を必ずreadingの前後に取り入れる【資料1】
→「話すこと（やりとり）」、pre-reading活動は読みに対する動機づけにもなる



スライド11

3 英語授業で心がけていること

(1) 「意見・考え」をやり取りできる仕掛け

英語表現の授業においても「意見・考え」を取り入れた活動を取り入れる【資料2】 → 「話すこと（やりとり）」



スライド12

3 英語授業で心がけていること

(1) 「意見・考え」をやり取りできる仕掛け

「意見・考え」を英語でやりとりすることで

- 英語でのコミュニケーションの機会が増える
- 生徒が主体の授業が展開できる (うなずき、笑いなどが授業中多く見られる)
- 教師自身が英語の授業を楽しめる

スライド 13

3 英語授業で心がけていること
 (2) 「4技能」を可能な限り取り入れる

コミュニケーション英語の授業で不足しがちなライティング
 →chapterごとにテーマに関する英作文を書く（「自由英作文」はコミュ英、英表の両方で必ずテストに出題、添削したものをそのまま出題）【資料3】



スライド 14

3 英語授業で心がけていること
 (2) 「4技能」を可能な限り取り入れる

コミュニケーション英語の授業で不足しがちなライティング
 →「think & writeノート」
 （ノートを半分に切ったもの）【資料4】



スライド 15

3 英語授業で心がけていること
 (2) 「4技能」を可能な限り取り入れる

英語表現の授業で不足しがちなリーディング
 →最後に書いた英作文をグループ内で読み回すことで補う【資料2】



スライド 16

3 英語授業で心がけていること
 (3) 度胸をつける

「意見・考え」をやりとりする活動を行った後、くじで1ペア選び、教室の前にでてきてもらって1分間話す



スライド 17

3 英語授業で心がけていること
 (3) 度胸をつける

パフォーマンステスト
 (show & tell、プレゼン) →「話すこと（発表）」
 (ディベート) →「話すこと（やりとり）」
 <学期に1～2回は必ずパフォーマンステストを行い、成績の2～3割として評価>

実際に両方のバージョンのパフォーマンステストの様子を御覧ください

スライド 18

3 英語授業で心がけていること
 (3) 度胸をつける

「音読テスト」+「retelling (chapterごと、発話量・内容・英語技能面で評価)」

Exercises	Points	Total
Phonetics	5	5
Phonics	5	10
Verb	5	15
Grammar	5	20

Name	Points to students	Score
Yoko Yabuta	7	7
The number of words	4	4
English (pronunciation, rhythm, grammar)	4	4
Content	4	4
Classmate		

3 英語授業で心がけていること

(4)教師自身が勉強・工夫し、色々試してみる

T E F L 委員会での活動【資料5】【資料6】

Let's express what you cannot do in reality!

3 英語授業で心がけていること

(4)教師自身が勉強・工夫し、色々試してみる

ワードカウンター変形バージョン【資料7】

3 英語授業で心がけていること

(4)教師自身が勉強・工夫し、色々試してみる

大型タイマーの導入

(成果の視覚化、タイムプレッシャー、発話量増加)

4 実践から見てきた成果・課題

(1)成果

- 生徒の処理能力が高まる
→資格試験の合格者増
センター試験での点数アップ
ディベート大会での活躍
- 生徒の英語授業への動機が高まる

4 実践から見てきた成果・課題

(2)今後の課題

- 知識面・英文量での不足や受験対策

→家庭学習との連携(単語・構文テストなどを用いて確認)、宿題(多読教材など)

→思い切って、週に1時間だけは明示的な指導(長文の読み方、文法等の解説など)

4 実践から見てきた成果・課題

(2)今後の課題

- 評価ルーブリックの見直し

Item	Affirmative Side	Negative Side
Fluency	Fluently	Unfluently
Accuracy	Accurately	Inaccurately
Content	Large amount (10 4 9 2 1)	Large amount (10 9 9 2 1)
Organization	2 2 1	2 2 1
Language	2 2 1	2 2 1
Task	100 points	100 points

Score	Score
10 10 10 10 10	10 10 10 10 10
5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
10 10 10 10 10	10 10 10 10 10
5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

参考文献

上山晋平 (2018). 『はじめてでもすぐ実践
できる! 中学・高校 英語スピーキング
指導』 東京: 学陽書房

大下邦幸 (2014). 『意見・考え重視の視点
からの英語授業改革』 東京: 大修館書店

スライド1

第17回高大連携教育フォーラム 2019年12月7日 (土)
キャンパスプラザ京都

第5分科会【英語】
**テーマ：豊かな表現力につながる
思考力の涵養を目指して**

涵養 (かんよう) : 自然にしみこむように、養成すること
無理のないようだんだんに養い作ること

同志社女子大学 表象文化学部 英語英文学科
准教授 今井由美子

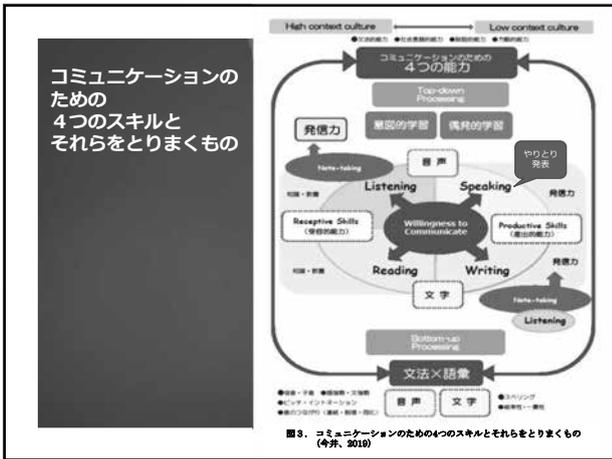
スライド2

これからの英語教育
4技能5領域を見据えたアウトプットへの指導

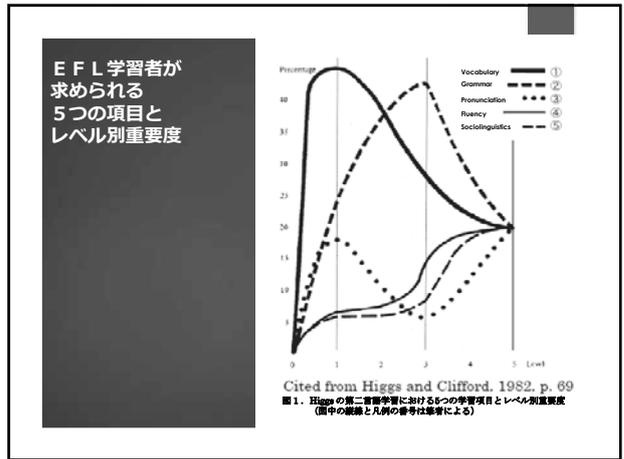
新学習指導要領
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、4技能の5つの領域別の言語活動及び複数の領域を結びつけた統合的な活動を通して、総合的に指導する

「聞くこと」、「読むこと」、
「話すこと (やり取り)」、「話すこと (発表)」、
「書くこと」

スライド3



スライド4



スライド5

図1. Higgsの第二言語学習における5つの学習項目とレベル別重要度

発音の重要性は？

初級レベル → 学習者の母音・子音の基本的な発音 (音声学的要素) について学ぶ時期
・母語との違いを意識した学習
・とにかく最初は覚えた単語や文を音声として口から出すこと

上級レベル → より流暢に言語を操るため、より豊かで複雑な表現を可能にするため、強勢、リズム、イントネーションなど (音韻論的要素、かぶせ音素) について学ぶ時期

* 発音の重要性 < 単語や文法の重要性
* 豊富な語彙と言語を理解するための文法を基礎に、意味のあるやりとりができること、相手や状況を踏まえ対話ができることが重要
* 発音において学習者に求められるのは、誤解されないレベルでの正確さ

English as a global language

スライド6

英語のネイティブ・スピーカーではないのだから、ネイティブ・スピーカーのように話す必要はない…

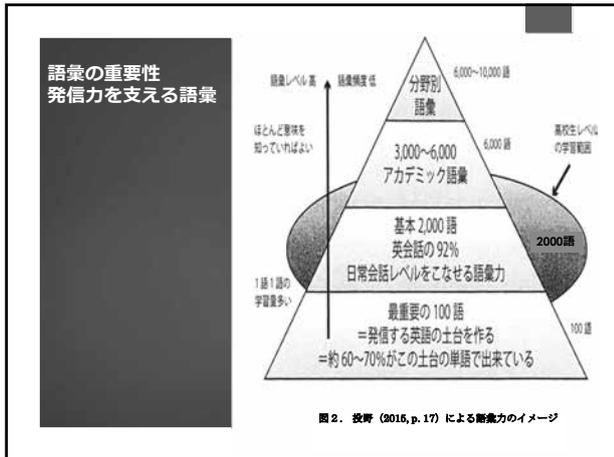
日本語を母語とする英語学習者

ネイティブのような発音への憧れ

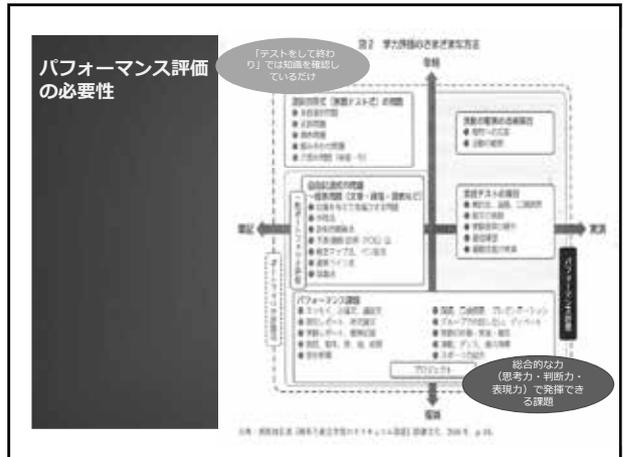
きれいな発音

ネイティブ・スピーカーの前では緊張してしまう

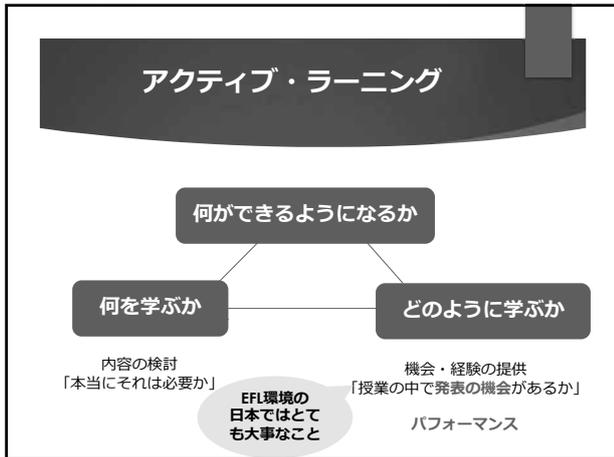
スライド7



スライド8



スライド9



スライド10

アウトプットにつなげるインプット

「目標」
 1年前の先輩の姿を記録に残し「こんなふうになるよ」を示す

「モデル（見本）」
 教師が「まずやってみせる」...よい見本となる、先生も緊張する、間違える生徒は安心する、励まされる

「しかけ」※
 学習者に使わせたい語彙・表現・組み立て方法などを提示（ヒント）何もしかけを与えず、「では話してください」では大学生でも困難

スライド11

評価するということ

「自己評価」
 pre-, post- 比較：同じ課題を学年始め（4月）と学年末（2月）
 記録（録画）：ビデオやスマホ、iPadなどを手軽に利用
 記録（録音）：CALL教室で録音し音声ファイルを提出、スマホで録音

「記録は語る」
 メタ認知知識：自分の短所や長所など、自分自身について知っている知識
 メタ認知技能：メタ認知的知識を把握した上で、現在の自分自身がどうか確認したり、対策を講じたりする能力

スライド12

何を評価するか

「あれもこれもと欲張らない」 今回は何を見るか

「簡単なスケールで」※ 基本は3段階

「生徒に評価させる」※ 評価表にはサインを

「自分もこのように評価される」 目標を明確に

スライド 13

アウトプットにつなげるインプット

「しかけ」※
 学習者に使わせたい語彙・表現・組み立て方法などを提示（ヒント）
 何もしかけを与えず、「では話してください」では大学生でも困難

「話すこと（やり取り）」... conversation
 「話すこと（発表）」... speech

impromptu→given without notes or preparation
 manuscript→given from a written script, using exact words
 preparation
 extemporaneous
 →given with a lot of preparation but the delivery is conversational and notes are rarely used.

授業の中の短い時間
 人前で緊張なくできる
 自発的な内容で話す
 毎時必ずやる
 高頻かつ大経験

スライド 14

Impromptu speech (即興スピーチ)

基本のかたち

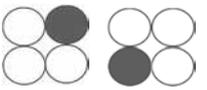
- ・ 3～4人のグループ
- ・ 発表順を決める
- ・ 1人が発表し、1人が記録、1～2人が聴衆 (eye contact)
- ※全員参加型の活動にする
- ・ 与えられたトピックについてすぐにスピーチ
- ・ 教師はタイムキーパー
- ・ 1人「1分」6分で全員が同時に発表可
- ・ 「1分半」でも8分程度
- ・ タイマー、ベル

発表者



記録者 聴衆






スライド 15

Impromptu speech (即興スピーチ)

評価方法

- ・ 教師が全員の評価をするのは「無理」だとあきらめる！
- ・ 教師も「参加」しちゃう！
- ・ 生徒・学生は自分で評価しているもの
- ・ グループ内でも「むずかしかったね」「よかったよ～」「わたしなら話せない」など感想を言っている
- ・ 毎回続けてやることで「次はうまく話したい」という気持ちが芽生えることを期待

難易度の調整

調整できるのは
 「時間」と「トピックの内容」

時間

- ・ 20秒の準備時間を与える
- ・ 【易】1分<1分30秒<2分【難】

トピック

- ・ 予告し準備させる【易】
- ・ 英検の面接のトピック【難】

スライド 16

アウトプットにつなげるインプット

「しかけ」※
 学習者に使わせたい語彙・表現・組み立て方法などを提示（ヒント）
 何もしかけを与えず、「では話してください」では大学生でも困難

アウトプットのためのインプットの必要性

「What do you want to be in the future?」
 "I want to be a doctor."
 "I want to be a baseball player!"

「職業カード」
 "What do you want to be in the future?"
 "I want to be a doctor to save sick children in Africa."
 "I want to be an astronaut because I'm interested in space."

将来持たない職業を口にできるのは小学生まで！

中学生・高校生になったら、引き当てる職業についてみたい自由や目的を考えさせる

WORD BY WORD, Second Edition, p. 114, 2007, Prentice Hall Regents

スライド 17

アウトプットにつなげるインプット

「しかけ」※
 学習者に使わせたい語彙・表現・組み立て方法などを提示（ヒント）
 何もしかけを与えず、「では話してください」では大学生でも困難

アウトプットのためのインプットの必要性

“Is it ever OK to lie?”

スライド 18

アウトプットにつなげるインプット

“Is it ever OK to lie?”

※「しかけ①」 Information from reading

Is it ever OK for a parent to lie to a child? My 10-year-old son plays soccer. He's not very good, but he loves it. Yesterday he played very badly. When he finished the game, he said, "Did I play well?" I said, "Yes! You're a great soccer player!" Did I do the right thing?

Yes, you did the right thing. You told your son a white lie. Your purpose was to make him feel good. Now he's ready to play soccer again.

In my opinion, you should be honest. Your son wanted to know the truth. He knew he didn't play well. In fact, he will learn not to believe you. He will not trust you. We will not respect you. Honesty is the first step to a good parent-child relationship.

You lied to make your son feel better, but that's not a life lesson. People need to know the truth. You can say, "No, you didn't play well today. Let's go practice." The truth will make him stronger.

What do you say to him when he plays a good game? Do you lie and say that he is a really great player so he believes you? Every lie requires lie more lies.

You worry too much. White lies are a necessary part of life. We need to lie to avoid hurting each other.

I don't think there's another to choose. They ask. We need to.

Children need honesty from their parents. Parents need to avoid lying, but they don't need to tell the whole truth. Next time, when your son asks, "Did I play well?" you can say, "What do you think?" Then your son can tell you what he thinks. That way, everything you say is true, and you avoid truth that hurts.

自分の考えに近いものを選ぶ

英語で何というか参考になる

※「しかけ②」
 生徒に使わせたい表現、構文、語彙などを提示する

Q: Skills for Success, Reading and Writing, Second Edition, p. 131-132, 2015, Oxford University Press

スライド 19

※「しかけ」統合的な活動にする：Speaking→Listening/Note-taking→Writing→Reading

- トピックは自由に選択
- 3つの語彙はリストから選択
- 2分間話し続ける ・スクリプトを読まない (eye contact)

Small Talk Project
Today's Topic and Keywords from English Playbook

contribute to allowance enable

My recent news

(おもて) (うら)

スライド 20

※「しかけ」統合的な活動にする：Speaking→Listening/Note-taking→Writing→Reading

Name: Rumina
Topic: My recent news
Three keywords: allowance, contribute to, enable

Speaker's name
Topic
Three keywords

Her recent news was what happened to her in her workplace. She works as a tutor at a cram school and teaches Japanese now. In her cram school, teachers are evaluated by students using a questionnaire which has five questions divided into five grades. Then, this result contributes to the allowance she can get with her salary. She told me that all teachers feel stressful during this period. Last month, she fortunately got a perfect score!!!!!! I guess that her salary is very high now. Before getting perfect score, she just could check the answers of the test, but now she can stand in front of students and practically teach Japanese to students. I am really proud of her. To hear this story, I am relieved that she does not have this kind of system. To have the same salary!

- Write 100 words or more
- Add your comment

スライド 21

アウトプットにつなげるインプット

「しかけ」※
学習者に使わせたい語彙・表現・組み立て方法などを提示 (ヒント) 何もしかけを与えず、「では話してください」では大学生でも困難

アウトプットのためのインプットの必要性

“What is an adult?”

スライド 22

アウトプットにつなげるインプット

“What is an adult?”

※「しかけ①」 Information from group members

Any one an adult about you?	How do you define adult?			Total	
Name	Name	Name		Yes	No
are 18 years old				Yes	No
are 21 years old				Yes	No
get married				Yes	No
own a house				Yes	No
have a child				Yes	No
earn money				Yes	No
travel abroad				Yes	No
act like an adult				Yes	No

友達の意見を聞く

※「しかけ②」 生徒に使わせたい表現、構文、語彙などを提示する

Q: Skills for Success, Reading and Writing, Second Edition, p. 148, 2015, Oxford University Press.

スライド 23

アウトプットにつなげるインプット

“What is an adult?”

「大人」の定義を知る

※「しかけ③」 Information from reading

What is an Adult?

Body

1. How do you know when a person is an adult? Does the person's age tell you? Or is an adult a person who takes on responsibility for work and family? There are different ways to define an adult.

Age

2. One way to define an adult is by age, but countries have very different ideas about the legal age of an adult. In China, men can marry at age 22 and women at age 20. However, in Bolivia, the legal ages are 16 for men and 14 for women, with their parents' permission. In Brazil, a 16-year-old can vote, but in most African nations, people get this right at age 21. The legal driving age in Ethiopia is 14, and in Russia it is 18. The legal age of an adult is different around the world.

Brain

4. Teenagers may have fully grown bodies, but they don't usually think like adults. Their bodies usually stop growing at about age 17, but one part of the brain continues to grow until a person is about 25. This part of the brain, the frontal lobe, helps a person to understand cause and effect. It also helps a person to use good judgment to make decisions, solve problems, plan, and organize. When this part of the brain is fully grown at age 25, a person thinks like an adult. This is a psychological definition of an adult.

※「しかけ④」 難しいことをどのように説明するか「読む」ことから学ぶ

Q: Skills for Success, Reading and Writing, Second Edition, pp. 151-152, 2015, Oxford University Press.

スライド 24

アウトプットにつなげるインプット

“What is an adult?”

※「しかけ③」 Information from reading

Responsibilities

3. Another way of defining an adult is as a person who can take on important responsibilities like a job and a family. An adult respects others and understands that his or her own needs are not always the most important. This is the social definition of an adult. Some teenagers behave like adults, but most are not that responsible until they are over 20 years old.

What is an Adult?

6. There is no one moment when a person becomes an adult. Teenagers don't usually act or think like adults, but they begin to learn about adult responsibility. With each new responsibility (driving, working, voting, and having a family), a person comes closer to being a full adult. Most people agree that by age 25 a person is a full adult.

The frontal lobe of the brain

※「しかけ④」 難しいことをどのように説明するか「読む」ことから学ぶ

Q: Skills for Success, Reading and Writing, Second Edition, pp. 151-152, 2015, Oxford University Press.

スライド 31

必要な項目だけ取り出して
テストするー評価する

Name: _____

Model Reading / Word Pronunciation / One Minute Speech / Sight Reading	ID: _____	Name: _____
Voice Quality 発音に響く発声であったか <input type="checkbox"/> 発音の高低の両方であったか	Practise Model (読み取りの) <input type="checkbox"/> 音の強弱 <input type="checkbox"/> 音の長さ	Note 発音の強弱 発音の長さ 発音の位置 発音の回数
Accuracy (Vowels) 文中に正しい母音の発音ができていたか 正確な母音の発音ができていたか	<input type="checkbox"/> 発音の強弱 <input type="checkbox"/> 発音の長さ <input type="checkbox"/> 発音の位置 <input type="checkbox"/> 発音の回数	発音の位置 発音の回数 発音の長さ 発音の強弱
Accuracy (Consonants) 文中に正しい子音の発音ができていたか 正確な子音の発音ができていたか	<input type="checkbox"/> 発音の強弱 <input type="checkbox"/> 発音の長さ <input type="checkbox"/> 発音の位置 <input type="checkbox"/> 発音の回数	発音の位置 発音の回数 発音の長さ 発音の強弱
Stress (強弱) 文中に正しいアクセントができていたか 正確なアクセントができていたか	<input type="checkbox"/> 発音の強弱 <input type="checkbox"/> 発音の長さ <input type="checkbox"/> 発音の位置 <input type="checkbox"/> 発音の回数	発音の位置 発音の回数 発音の長さ 発音の強弱
Rhythm and Smoothness 文中に正しいリズムができていたか 正確なリズムができていたか	<input type="checkbox"/> 発音の強弱 <input type="checkbox"/> 発音の長さ <input type="checkbox"/> 発音の位置 <input type="checkbox"/> 発音の回数	発音の位置 発音の回数 発音の長さ 発音の強弱
Intonation and Pause 文中に正しい抑揚ができていたか 正確な抑揚ができていたか	<input type="checkbox"/> 発音の強弱 <input type="checkbox"/> 発音の長さ <input type="checkbox"/> 発音の位置 <input type="checkbox"/> 発音の回数	発音の位置 発音の回数 発音の長さ 発音の強弱
Performance 文中に正しい表現ができていたか 正確な表現ができていたか	<input type="checkbox"/> 発音の強弱 <input type="checkbox"/> 発音の長さ <input type="checkbox"/> 発音の位置 <input type="checkbox"/> 発音の回数	発音の位置 発音の回数 発音の長さ 発音の強弱
One Minute Speech 1分間のスピーチができていたか 1分間のスピーチができていたか	<input type="checkbox"/> 発音の強弱 <input type="checkbox"/> 発音の長さ <input type="checkbox"/> 発音の位置 <input type="checkbox"/> 発音の回数	発音の位置 発音の回数 発音の長さ 発音の強弱

自分の得意な項目を見つけて、毎回の練習で練習しよう。

スライド 32

何を評価するか

「簡単なスケールで」※ 基本は3段階

段階別評定尺度:

6 (Excellent) - 5 (Very good) - 4 (Good) - 3 (Fair) - 2 (Poor) - 1 (Very poor)

5 (Very good) - 4 (Good) - 3 (OK) - 2 (Need more practice) - 1 (Come to see me SOON!)

5 (Very Good) - 3 (OK) - 1 (Come to see me SOON!)

A - B - C

スライド 33

何を評価するか

「自分もこのように評価される」※ 目標を明確に

「生徒に評価させる」※ 評価表には評価者のサインを

スライド 34

【作成した教材の提出前チェックリスト】 教育実習・英語科教科教育法

英語科教科教育法A Class: _____ Student ID: _____ Date: _____ Name: _____

Song Dictation Check list

	Yes	I'm not sure	No
1. 歌詞についての情報が添えられていますか(タイトル、歌手名、発表年など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 歌の選択は生徒にとってよい選択だと思いますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3. 歌の速さは生徒の英語のレベルにふさわしいものですか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. ()や _____ に入れる語の「テーマ」は明確ですか(無意味なタスクにしない)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5. ()や _____ の数は生徒にとって適切ですか(数を減らしながらタスクができますか)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6. ()や _____ には単語を書き入れるだけの十分なスペースがありますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7. ()や _____ に番号や記号などがつけられていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8. 歌詞の間違い(聞こえてくる歌と歌詞が違っている)はありませんか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9. 課題用紙に、生徒のクラス、氏名など記入する欄がありますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10. 空白効果的に利用する工夫がなされていますか(無駄な空白を作らない)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. 自分で実際に歌を聴きながら単語を書き入れましたか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12. 別紙で回答を用意していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

学生同士でチェックしたものを提出させます。かなり助かります!

スライド 35

【模擬授業の評価表(学生用)】 教育実習・英語科教科教育法

4年次合格点 3年次合格点

For	5 Excellent	4 Good	3 Acceptable	2 Little prepared	1 Not satisfied
① Model English	発音(イントネーション)など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか
② Classroom English	発音(イントネーション)など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか
③ Achievement	発音(イントネーション)など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか
④ Preparation	発音(イントネーション)など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか
⑤ rehearsal	発音(イントネーション)など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか
⑥ Feedback	発音(イントネーション)など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか
⑦ Teacher's Attitude	発音(イントネーション)など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか	発音の強弱、長さ、位置、回数など正確な発音の両方であったか

スライド 36

Good Aspects 単に「よかった」とほめるだけにしない。「何がよかったか」を具体的に評価する。

Any Suggestions? 「どこが改善されたらよりよくなるか」を書くようにする。厳しいコメントが次の発表につながる。

評価者にサインさせコメントに責任を持たせる

スライド 37

振り返りレポート—模擬授業を終えて—

学籍番号: _____ 氏名: _____

- 実施日: (←模擬授業実施日(担任))
- 対象: (←模擬授業対象学年(担任))
- 使用教科書: (←模擬授業で使用した教科書(担任))
- 評価の仕方: (←Evaluationで採点した点数(点数), 点数化(総計), 平均点を出す)
(←採点の過程)

Item Evaluation	5	4	3	2	1	人数	点数	平均点
Model English								
Classroom English								
Achievement								
Preparation								
Rehearsal								
Feedback								
Teacher's Attitude								
(点数ごとの人数)						総人数	総点数	平均点数
Overall Evaluation								

●3 年次模擬授業において浮き彫りになった課題点は得ですか。4 年次授業実習の次の課題点への取り組みについて書きましょう。

評価点まで計算してもらおう!

スライド 38

評価すること

「自己評価」

pre-, post- 比較: 同じ課題を学年始め(4月)と学年末(2月)
 記録(録画): ビデオやスマホ、iPadなどを手軽に利用
 記録(録音): CALL教室で録音し音声ファイルを提出、スマホで録音

「記録は語る」

メタ認知知識: 自分の短所や長所など、自分自身について知っている知識
 メタ認知技能: メタ認知的知識を把握した上で、現在の自分自身がどうか確認したり、対策を講じたりする能力

自律学習・自立学習・生涯学習

スライド 39

参考文献

- ・ Higgs, T. V. & Clifford, R. (1982). The Push Toward Communication, in Theodore V. Higgs (ed.) *Curriculum, Competence, and the Foreign Language Teacher ACTFL Foreign Language Education Series*. 57-79.
- ・ 今井由美子 (2019). 「スピーキング能力向上を目指すEFL学習者が知っておくべき8つのこと」 *Asphodel*, 54, 同志社女子大学英語英文学会.
- ・ 今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子・米田信子 (2010) 『Sounds Make Perfect』 英宝社.
- ・ 西岡加名恵 (2016). 『教育とカリキュラムの総合設計』 図書文化.
- ・ 投野由紀夫 (2015). 『発信力をつける新しい英語語彙指導』 小学館.
- ・ 『Q:Skills for Success, Reading and Writing』 Second Edition, Oxford University Press
- ・ 『WORD BY WORD』 Second Edition, Prentice Hall Regents

